

POWER FILE★1143

身近な海の事件を取材！



海と日本
PROJECT

バスツアー 僕らは海の報道記者

キッズ記者が、海の事件を追いかけて天橋立へ！

子どもたちが報道記者となって、海の事件を取材する「海と日本プロジェクト バスツアー 僕らは海の報道記者」が8月26日(土)に開催されました。

ツアーは、日本財団・総合海洋政策本部・国土交通省を中心にオールジャパンで推進する「海と日本プロジェクト」の一環。日本の暮らしを支える海の大切さを発信し、その環境を守り継ぐ活動を展開しています。

今回は京都の海、天橋立で起こった問題を追いかけるバスツアー。小学4年生から6年生までの子どもと保護者が参加しました。普段、記者として各地を駆け回る竹内弘一アナも同行。子どもたちに記者の心得を説きながら、ともに海の問題を考えました。

阿蘇海の水質汚染。環境を守るべく活動する人を取材。



竹内アナをはじめ、「森谷威夫のお世話になります！！」(月～木/10時～13時55分)ラジオカー担当の井川茉代と佐藤桃子、さらに石田鮎美も同行。

朝8時にKBS京都で出発式を行い、一行はバスで天橋立に向かいました。



10時30分頃に天橋立ホテルに到着。「海と日本プロジェクト in 京都」PRパートナーで舞鶴出身のアイドル・講演家の夏目亜季さんと合流し、一緒に海の事件を取材することになりました。そして、NPO法人丹後自然を守る会の蒲田理事長に、天橋立をめぐる海の事件についてお聞きしました。



宮津湾にある天橋立。内海である阿蘇海には川を通じて生活用水や農業排水が流れ込みますが、水の逃げ場となる外海と繋がるのはほんの一部。そのため阿蘇海の水質は徐々に悪化してプランクトンが増え、カキが大量発生してしまいました。腐敗したカキ殻は流されて一箇所に溜まり、悪臭を放ちながらさらに水の循環を妨げるのだそうです。そこで、地域自治体やボランティア団体が、カキ殻の撤去に励んでいます。撤去された殻は、

地元のブドウ畑などで活用されているといいます。

事件の真相に耳を傾けながら、配布された記者ノートにペンを走らせる子どもたち。鋭い質問も飛び交いました。

そして、実際にカキ殻撤去作業が行われている海岸へ移動。パッカー車で作業中の国際ボランティア学生協会の改田さんに出会い、撤去作業や環境ボランティアなどについてインタビューしました。



昼食をはさんで、一行は再びバスに乘車。撤去されたカキ殻を活用する天橋立ワイナリーへ向かいました。3ヘクタールのブドウ畑を持ち、



2001年にワイン醸造を開始。山崎社長いわく「もともと社員が自主的にカキ殻を撒いていた」とのこと。3年ほど前から、学生ボランティアが回収したカキ殻を活用しているそうです。狙いは、土壌改良や排水性向上の効果。お話の後、ブドウ畑やワイン醸造の様子を見学し、子どもたちは最後までしっかり取材。その様子は、報道記者さながらです。



記事にまとめる身近な海の事件。優秀記事は番組で紹介。

その後、「海の京都クルージングフェスタ」開催中の阿蘇シーサイドパークに立ち寄ってイベントを楽しんでから、バスは海辺を出発。17時30分頃にKBS京都に到着し、解散となりました。

ツアーを通じて知った海の事件と、その解決に向けて取り組む人の姿。子どもたちはこの日の学びを、報道記者として記事にまとめました。提出されたレポートから優秀記者を決定し、9月12日(火)の「竹内弘一のズキュー〜♡」(火/14時～17時)で発表。番組内でレポート内容も紹介する予定です。またツアーの様子は、KBS京都テレビ「京bizX」(金/21時～22時25分)で9月中にお伝えします。

海の問題を、身近で体感したバスツアー。未来を担う子どもたちが、身近な海について改めて考えるきっかけになればと願っています。